

白井市文化センターのあり方検討委員会第3回会議（概要）

- 1 開催日時 令和3年6月29日（火）午後3時から午後4時45分まで
- 2 開催場所 白井市文化センター2階かおり（中）ホール
- 3 出席者
 - (1) 委員 小川真実委員長、三浦永司副委員長、久富清敏委員、島田伸委員、比屋根健委員、山口一郎委員、関口文子委員、山本美智子委員、中島恵委員、板橋章委員、鈴木隆宗委員、藤川敦史委員
 - (2) 欠席者 榛沢宏一委員、五十嵐真人委員
 - (3) 事務局 和地教育部長
文化センター 石田センター長、高花主幹、鎌田図書館長、矢ヶ部主査、岸下主査補、渡邊主任主事、山田学芸員
文化センターのあり方検討支援業務受託者
株式会社シアターワークショップ 伊東、佐藤、山本、真木
- 4 傍聴者 14名
- 5 議題等
 - (1) 近隣施設（文化ホール等）の調査結果について
 - (2) 各館の基礎調査結果（利用状況の整理等）について
 - (3) 市民アンケートの結果について（中間報告）
 - (4) 今後の検討委員会の進め方について

（会議概要）

・主に第2回会議で要望をいただいていた内容について、報告事項及び議題を設定し、事務局から説明を行ったところ、以下のとおり次回会議までに準備すべき資料等の要望が委員から出された。

- ① 劣化調査の結果について、各施設に付随する見積もり費用
- ② 文化ホールのライフサイクルコスト（市民1人あたりの費用、次の30年までの経費）
- ③ 商業施設の併設が可能か否か
- ④ PFIの事例集

これらについては、次回以降の会議で説明及び議題として取り上げることとなった。

次回会議の議題は、①～④の資料をもとに規模拡大・現状維持・規模縮小・廃止等、今後のあり方についての協議を予定している。

※他に要望事項として出された「白井市中心に隣接する自治体に絞って、白井の団体がどれくらい利用しているかの追加調査」については、隣接自治体にある文化ホールへのアンケート調査結果によると白井市民の利用状況について詳細を把握していないことが確認されたため、代替えとして、白井市文化会館の利用者ヒアリングの中で、近隣自治体の文化ホールの利用状況を追加調査することとする。

(会議内容)

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 報告事項

- ・ (1) ～ (3) 事務局より資料に基づいて説明。
- ・ 出された主な意見、質疑等と対応

※市職員が委員の構成メンバーの中に含まれているため、質問に対して事務局ではなく委員が回答しているものもある

(1) 近隣施設（文化ホール等）の調査結果について

委員 県内の類似施設を調査しているが、白井市民の行動範囲を県内全域と想定しているのか。

事務局 ホールの利用域は鑑賞か発表かで異なる。鑑賞の場合は出演者を目当てに遠方へ出向くことがあるため広域で調査しているが、発表の場合は出演者・関係者が市民であるため範囲に限られる。

委員 資料1からはどのようなことが言えるのか。

事務局 1つは各自治体が自治体内の利用者に対する優遇措置を取っており、自治体外の利用者は利用に支障が出てしまうことがあるということ。2つ目は文化センター内のいずれの施設も存在意義があり簡単に廃止することは出来ないということである。

(2) 各館の基礎調査結果（利用状況の整理等）について

委員 資料2の劣化調査の結果について、数値化されたものはなかったのか。
また、今後すべき改修工事の案は出たか。

事務局 現段階では目視を中心とした検査のみで、数値を出すような検査はしていない。
また機能向上の工事は市民ニーズに合ったものを実施していくべきであり、設備も現在の性能に即したものを導入し向上させていくことが考えられる。

委員 資料2劣化調査を踏まえ、白井文化センターを維持するために必要な費用について具体的な金額を調べることは可能なのか。

事務局 改修・改築・建築など各パターンでどの程度の費用がかかるのか、本施工業者さんの協力も得ながら概算を出す予定。

委員 複数の施設を併用している利用者も多いという話だったが、各施設の法律によって複合利用に制限は出るのか。

事務局 法律による縛りという意味では、何も問題ない。

委員 民間委託の劇場・図書館として民間に入札でお願いすることはできるのか。

事務局 自治体で作る公共施設を民間企業が指定管理者として運営するケースは非常に増えているが、建物の持ち主はあくまで行政で年間サービス購入料も払っている。

(3) 市民アンケートの結果について（中間報告）

- ・ 意見・質疑等無し。

4 議題

- ・ 事務局より資料に基づいて説明。

・出された主な意見、質疑等と対応

※市職員が委員の構成メンバーの中に含まれているため、質問に対して事務局ではなく委員が回答しているものもある

(1) 今後の検討委員会の進め方について

委員 事務局としては前回配られたスケジュールが前提だと考えて話を進めればよいのか。

事務局 資料4の別紙が小川委員長と調整した最新版のスケジュールだが、あくまで案である。

委員 市民1人あたりどれ程の費用がかかり、次の30年までどういった経費がかかるのかは、シミュレーションがなされるのか

事務局 建物のライフサイクルコストについては、協議して進めていきたい。時間がどれくらいかかるかは別として、経費のシミュレーションはご提示できる。

委員 財政的に危険水域に行かないよう、数値的な裏付けはあるのか。

委員 後期基本計画の財政推計では工事費として約4億円を見込んでいるが、これは特定天井の改修と外壁部分のみが該当している。その他にも各設備の更新で費用がかかると思われるが、あり方の検討が分からないと算出できないため、財政推計には計上していない。

委員 財政の予算増加が難しいのであれば、施設が何らかの方法で収入を得るしかないと思ったのだが、商業施設と併設することはできるのか。また市として、存続に向けて収益を得るためのアイデアはあるのか。

委員長 それに際しては検討事項もいくつかお示しいただいて、次回以降に議論したい。

委員長 白井市が単体で直営を続けることが難しい場合、近隣の自治体と共同運営する手法も良いのではないかと。ただし、この話は委員会での案を作ったとしても、最終的には政治が判断することである。

委員 近隣の自治体の各施設が、白井市の各施設と連携する意思を持っているか確認することは可能か。

委員長 委員会として市長に対して答申を挙げ、行政に働きかけてもらうのが筋道。

委員 民間委託の事例を出すことは可能か。

事務局 パークPFIのようなコンセッション方式は都内では多く事例があるので、それらをまとめご提示することは可能。改修の場合はPFIは非常に少ないが調査した資料はある。

5 その他

・次回会議日程について

6 閉会